

彼岸花満開のニュースを聞いていたかと思うと、あっという間に寒露の10月を迎えました。昼夜の気温差が激しく、体調を崩す児童も何人か出ています。しかし、この気温差が秋の収穫物の美味しさの決め手になることはご存じだと思います。神石高原は今年も厳しい環境の変化をくぐり抜けながら、実りの秋を迎えました。

神石小5・6年生児童28名は先月末より、町内陸上記録会や修学旅行を終えて、今は今月17日に行われる教育研究会に向け、全校児童と共に神石小授業スタイルの定着を目指して毎日がんばっています。休憩時には、鼓隊の曲を練習する子供たちの楽器の音が廊下から聴こえてきます。当日には、その成果の一端を見て頂けるとと思います。また、校内においては夏休みの科学研究入賞作品や工作作品を展示しています。地域、保護者の皆様のご来校を心よりお待ちしております。

さて、今回の修学旅行で子供たちの思い出の印象的なキーワードは、「百聞は一見に如かず」でした。中でも、奈良東大寺の大仏様の想像以上の壮大な様には皆も驚き、実際に自分が見聞きすることの素晴らしさや重要性に気付いていたようでした。是非これからの自分たちの学びにつなげて欲しいです。天平年間に建立されてより幾度も災難に遭ってきた大仏様を見上げ、見学の最後には手を合わせていた神石小の子どもたちが、この秋にさらに健康で大きく成長していくことを願っています。



<大仏殿の前で集合写真>

9月25日

校長 爲平 祐嗣